

「いい夫婦の日」(11月22日)にちなんだ大内人形まつりが19日、山口市下堅小路の山口ふるさと伝承総合センターで始まった。20日まで。

大内人形は伝統工芸「大内塗」の一つで、室町期に大内弘世が京から花嫁を迎えた際、京から多くの人形師を呼び寄せて屋敷中を人形で飾り喜ばせたのが始まりとされる。この物語が男

まつりは大内塗の活性化に取り組み大内塗漆器振興協同組合の主催で3回目。組合に加盟する4事業所・7人の職人が制作した大内人形をはじめ、大内塗の漆器など100点以上を展示

くれたらうれしい」と話した。

フェスティバルは地域の人との交流を通して感謝の心と郷土愛を育もうと初めて開催。児童たちが収穫したもち米を使った餅つき大会や、町内の名所を紹介する「周東町かるた大会」もあった。

糖尿病予防へ 啓発イベント

阿知須共立病院で

糖尿病予防に関する啓発イベントが19日、山口市阿知須の阿知須共立病院であり、約30人が参加した写真。

国連が認定している14日の「世界糖尿病デー」に合わせ実施。血圧・血糖など

販売している。若い世代に関心を持ってもらおうと、大内人形を現代風にアレンジした「Ouchi夫婦」も並んでいる。

同市の山口風月堂が開発した大内人形を模した和菓子「大内もなたん」を先行販売。誕生日や結婚記念日など特別記念日を迎えた来場者には「特製オリジナルフォトカード」をプレゼントする。

同組合事務局は「職人の作品が一堂に集まる1年に1度の貴重な機会。職人ごと人形の表情や模様の違い、夫婦田満の様子を見て和んでもらえたら」と呼び掛けている。午前10時〜午後4時。問い合わせは同センター(電話0833・928・3333)へ。



の測定や理学療法士による運動療法に関する指導、病院内を巡るクイズ形式のウォークラリーが行われた。

同病院は昨年5月から毎週水曜日に糖尿病教室を開いている。担当の専門・指導医、松原弘子さんは「高齢化社会になって糖尿病患者も増加している。予防の

ためには、若い頃から食事や運動に気をつけてほしい」と呼び掛けた。

下関で市民講座も

糖尿病予防の市民公開講座が19日、下関市竹崎町のシーモールホールであった。

健康運動指導士の和木宏泰さんが運動療法について、「立っている時のエネルギー消費量は座っている時の2倍。まずは立つ、歩くなどの日常生活の活動を増やすことが大事」などと説明。健康寿命を延ばすための簡単なストレッチを実演しながら教えた写真。山口大学医学部長の谷澤幸生教授の講演「今、あらためて糖尿病」もあった。

国連が定める世界糖尿病デー(14日)に合わせて市内



各地でシンボルカラーのブルーライトアップイベントを行った下関地区実行委員会、市、市医師会の共催。山口新聞社など後援。講座修了後、同市あるかぼーとのアミューズメント施設「はいーからっと横丁」でブルーライトアップの点灯式もあった。